

# 日本共産党 山形市議団報告

2008年  
6月22日  
第1250号

日本共産党山形市議団  
山形市小白川町四 一三 一五 電話(六四二)四三三三  
メール 0236424318@ams.odn.ne.jp (六四三)三四三九  
市議会議員 高橋か一郎 柏倉一二七 (六八四)九八三一  
今野 誠一 船町一六 (六四二)八六四〇  
佐藤あき子 青田一七・三六A (六四二)八六四〇

ホームページ <http://www2.odn.ne.jp/jcc-jmrsaliv/>

## 岩波の心中事件は社会全体の問題 後期高齢者医療制度は『負担減』ではない

### 高橋か一郎市議が市議の質疑で反論

六月定例会初日、十二日の本会議で、市長の提出議案説明に対し、高橋か一郎市議は次のような質疑を行いました。

「こらないよう努める」

高橋「特養老人ホームに入れば家族は安心できるが、入れない。自らも職業は市の臨時(季節労働者)の不安定雇用、農業でも生きていけない。社会全体の問題ととらえるべき。秋葉原での事件も派遣労働者であり、前途が見えない中で起こっている。」

「〇日の山新夕刊で『蟹工船』が八文字屋でも売れており、三〇万部の増刷と報道された。無権利で奴隷労働を強いられた蟹工船の描写が現代の若者と共通している。作者の小林多喜二は戦前、特高警察に逮捕、その夜に虐殺された作家である。こうした世の中の状況を見定めるべき」

また、保守系の議員が『後期高齢者の負担増だけが話題になっているが、若者の負担増も考慮すべき』

また山形では負担増にならないのでは」と質問し、市長が「七割の人が負担減になると推計している」と答えました。

これに対し、高橋市議は「七割の人が従来の保険料より負担減になると言ったが、この制度は二年おきの見直しで自動的に保険料が値上げされる。介護保険料も最初は低くおさえて三年ごとの見直しでうんと高くなり年金から差し引かれていくが、後期高齢者医療制度もそうなる。前議会でも保険料を引き上げないと約束できるか市長に質したが、約束できないと答弁している。どんどん値上げして年金から差し引くくみだ」と反論しました。

## 後期高齢者医療制度の廃止求め 市内で2日間、署名行動

一三日と一六日の二日間、日本共産党は七日町街頭で後期高齢者医療制度の廃止を求める署名を集めました。

党市議団がマイクを握ったほか、佐藤まさゆき衆院予定候補、渡辺ゆり子県議らが参加しました。

高齢者だけでなく、若い人も足を止め、多くの方が署名に協力し、「これまで国を支えてきた高齢者へのひどいしうち」「情けない気持ち」など、廃止を求める声が寄せられました。

日本共産党は小泉元首相が法律を通した時から、この制度に反対してきました。今後廃止を求め、全力を尽くします。



16日の行動でマイクを握る高橋か一郎市議市長

18日の行動で街頭に立つ党市議団

## 50周年の平和行進に参加

核兵器の廃絶をめざして、1958年にはじまり、ことし50周年となる平和行進は、17・18日に山形市内を歩きました。

党市議団は第二公園で集会し、裁判所前まで歩く、17日夕方の行進に参加し、道ゆく人にアピールしました。

